

現在の

北方領土

を知る。



テーマ

北方領土で問題となっている「ゴミ問題」また、根室高校の岡野さんの話を聞いて気がなった、「北方領土返還要求運動」について調べました。

☆ゴミ問題について

北方領土は、とても自然が豊か、のどかな地域で過ごしやすいです。また、豊富な水産資源に恵まれます。しかし、まず、かに、また貝などの多くの魚介類がとれます。また、夏は寒暖の差が比較的穏やかで、2月の平均気温はマイナス6℃前後、夏の平均気温は15℃前後です。私が住んでいる東京とはぜんぜん違っていてびっくりしました。そんな北方領土ですが深刻な問題が起きています。それが、「ゴミ問題」です。ゴミ問題とは、北方領土に住んでいるロシア人が町中にたくさんゴミを平気で捨ててしまっていることで、環境問題となっているのです。私が、「ゴミ問題」をテーマとしたドキュメントを見てびっくりした「ゴミ問題」の現状はこうです。うは、島のあちこちにゴミ山のようなものが何個かあることです。ゴミはメントによると、ロシア人は何でもポイ捨てをしまし、ゴミが何個も作られたのではと考えられています。ゴミ山は、水産加工場の話です。ドキュメントを見て、ロシア人が水産加工場を営んでいる水産加工場に日本人が見学に行くと、汚い場面があり、そこで、水産加工場から出た排水はそのまま海に流れているという事実を初めて知り、その影響により、北方領土周辺の海は、ゴミが漂っており、魚のうろこのようなものも浮いてしまっている

東京都立
杉並区立
泉南中学校

ではないかということを大人に向けて発信しています。私は、「ゴミ問題」について、女子高校生の意見にとても賛成しています。なぜなら、スポーツをやって、楽しめ、それだけで仲は深まるかもしれませんが、本来の日本の目的である「四島返還」に近づくためには現在の北方領土の状況にロシア人・日本人両方が真剣に向き合っていくべきだと私は思っています。また、最近の動きでは、平成28年路に日露首脳会談がありました。そこで、具体的な話は行われませんが、「ゴミ問題」を優先して解決すべきという結果になりました。両首脳からの意見もあるため、この会談を機にも、島民のロシア人や私たち日本人が問題に関心をもち、「知る」ことが大事なのではないかと私は思いました。

☆北方領土返還要求運動について

北方領土返還実現のための外交交渉を強力に後押しするためには、世代を超えて国民一人一人がこの問題を正しく理解して関心を高めることが大切です。そこで、2月と4月を「北方領土返還運動全国強化月間」と定め、大会や署名運動を行います。また、2月7日を「北方領土の日」と定め、(日魯通好条約が結ばれたのが59年の2月7日のため)毎年2月7日には、内閣総理大臣が出席して「北方領土返還要求全国大会」が東京で開催され、全国各地でさまざまな返還運動が行われています。私は研修初日の昼、納沙布岬の近くに「北方館」に行きました。そこには、いろいろな資料や展示物

いう場面もありました。ドキュメントでは、女子高校生が、「これからロシア人の交流は、スポーツをやって楽しく終わるだけでなく、ロシア人と日本人でゴミ拾いをしたりどうだろうか。そうすれば、ロシア人も「ゴミ問題」へ意識が傾いてくれるのでは



日露首脳会談の様子

☆編集後記

私は今回、「ゴミ問題」と「北方領土返還要求運動」をテーマに調べてみて、たくさんのお話を聞きました。同時に同じ壁新聞のメンバーと仲良くなることができました。仲良くなったことで、他愛のない会話から、北方領土の真実な話まで、意見をぶつければ、会話する機会ができたので、とても良かったです。最後に、私が思う「返還」に近づく方法は2つです。それは、ロシア人と日本人全員が北方領土問題のことを知り、理解すること。もう一つは日本人・ロシア人が北方領土問題のことを他人事と思わないようにすることだと思います。北方四島の返還を願っています！

があり、とても勉強になりました。北方館の入り口に、「北方領土返還要求運動参加者名簿」という物があり、見てみると、いろいろな都道府県がそこに名前を記入して書いていました。私はそれをみて、みんなにたくさんの方が返還を願っているのだな、と思いがあたたかくなりました。また、それと同時に、日本国民はみんなに北方四島の返還を願っているのに、ロシア人は、北方領土が日本の領土だということを知らずに生活していることを知り、とても驚きました。ロシア人も北方領土のことをちゃんと知るべきなのではないかな、と思いました。やはり、「知る」ことから始めて、そこから輪を広げて、「実行」し、「解決」に少しでも近づけるように日本人とロシア人が関わり、いくべきだと思います。

